

事務事業名	家庭教育センター施設管理事業	事業期間	1995 ~	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	家庭教育センター	連絡先	73-0888	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中
			基本計画①	01	教育大綱	0101	家庭教育の充実		
			基本計画②	01	子ども・家庭応援計画	0101	乳幼児期の発育・発達と家庭教育の充実		
			実行計画	01	子ども・家庭応援計画	0101	乳幼児期の発育・発達と家庭教育の充実		

予算事業名	家庭教育センター施設管理事業	会計コード	01	款	10	項	05	目	04	事業	03
-------	----------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
(簡潔にわかりやすく)
市民の身近な学びの場として、多くの市民が利用できるよう快適な環境を提供するよう維持管理、設備の保守点検、清掃等に努める。子育ての方法、家族のあり方、働き方、コミュニティのあり方など自分自身、家族、地域社会等すべての方々の学びの場、活動の場として、講座、情報提供をする。

現状と背景
(どうして)
平成7年建築後の老朽化が目立つようになってきている。施設を使用する団体、子育てサークル等は増えてきているが、家庭教育センターを色々な活動で活用できることを知らない方もいる。知ってもらうための周知が必要となっている。

目的
対象
受益者 (誰のために)
家庭教育センター利用者
対象 (直接働きかける)
家庭教育センター利用者

留意点 (どんな状態にしたいか)
より多くの方が、家庭教育センターを快適な環境のもとで利用する。
利用者の年齢層、活動が広がる。
茅野市環境方針のもと、環境への負荷が少ない施設を目指す。

手段・方法 (どうやって)
・朝、夕方の施設点検見回りを毎日実施する。・効果的な早期改善の補修等を行い施設の延命を図る。・施設管理業務を業者へ委託する。(自動扉装置保守・エレベーター保守・火災報知器等保守・防火対象物点検等)・家庭教育センターの利用案内、周知をホームページ、広報ちの、公民館利用者説明会等で行う。・施設利用者に省エネルギー、丁寧な利用等呼びかける。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	施設使用説明会の開催	説明会の開催数	回	公民館等利用者説明会の開催数	4
		2	利用案内の実施	利用案内の実施数	回	利用案内の周知の回数	2
		3					
変更履歴							

成果指標	成果・効果は何?		指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
	1	家庭教育センター利用者の増加	利用者数	人	家庭教育センターの年間利用者数	45,000
	2	苦情非発生割合の増加	苦情非発生割合	%	(365-苦情発生日数/365日) × 100	100
	変更履歴					

実況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	3,904,578	3,683,000	
財源内訳	国庫支出金	円					
	県支出金	円					
	地方債	円					
	その他特定財源	円	157,110	147,000			
	一般財源	円	3,747,468	3,536,000			
活動指標	説明会の開催数	目標	回	4	4		
		実績	回	4			
		達成率	%	100.00	-	-	-
	利用案内の実施数	目標	回	2	2		
		実績	回	2			
		達成率	%	100.00	-	-	-
-	目標	-					
	実績	-					
	達成率	%	-	-	-	-	
成果指標	利用者数	目標	人	45,000	40,000		
		実績	人	39,809			
	達成率	%	88.46	-	-	-	
	苦情非発生割合	目標	%	100	100		
実績		%	100				
達成率	%	100.00	-	-	-		
備考							

事務事業名	家庭教育センター施設管理事業		事業期間	1995 ~	年度	係内番号	02
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	家庭教育センター		連絡先	73-0888	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 (CHECK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果要因分析	家庭教育センターへの利用者数については、毎年変わらない利用者数である。利用者についても毎月定期的に活動を行っている団体が多いためと思われる。苦情についてはなかった。				
	総合評価	定期的に活動を行っている団体の他にも、ホームページや広報ちの、公民館利用者説明会等を通して周知を行った。初めて館を利用する団体へは、初回の利用時には館内の説明等を丁寧に行った。				
	課題	館内の設備について、老朽化が進んでいるため毎年同じ個所の修繕が発生している。				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌年度方向性	成果 コスト	現状維持			
改革・改善の方向性(ACIT)	成果 コストの方向性の内容	現状維持				
改革・改善の方向性(ACIT)	成果 コストの方向性の内容	館内の設備について、丁寧に扱うように説明、指導を行っていく。				

作成担当者	永澤 美代子				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				

事務事業名	家庭教育センター運営事業	事業期間	1995 ~	年度	係内番号	01
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	家庭教育センター	連絡先	73-0888	

政策番号	02	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	教育大綱	0101	家庭教育の充実		
			基本計画②	01	子ども・家庭応援計画	0101	乳幼児期の発育・発達と家庭教育の充実		
			実行計画	01	子ども・家庭応援計画	0101	乳幼児期の発育・発達と家庭教育の充実		

予算事業名	家庭教育センター運営事業	会計コード	01	款	10	項	05	目	04	事業	02
-------	--------------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
 (簡潔にわかりやすく)
 育児不安を抱え孤立した子育て家庭が増加している。その中で、家庭教育の重要性を理解してもらい、子育てに役立ててほしいと考え事業実施をしている。子どもの成長段階に沿って、子どもと親がともに学ぶ場と機会を提供しながら「たくましく・やさしい・夢のある子ども」に育っていき、親としての自覚を持つことを願い、講座等を実施している。健やかな家庭を築きあげていく手助けとなるために、家庭、教育等に関わる相談を実施している。

現状と背景
 (どうして)
 社会情勢が変化する中で、核家族の増加など地域とのつながりの希薄化などを背景に、育児不安を抱え孤立した子育て家庭が増加している。地域に知り合いの少ない親が気軽に集える場所の確保や、親子のふれあい、親と親との仲間作りの場、育児相談等の場が必要である。

目的
 受益者 (誰のために)
 保育園等に入園する前の子どもと親。保育園、小中学校の親。
 対象 (直接働きかける)
 家庭、教育等の悩みを持っている人。
 意 (どんな状態にしたいか)
 楽しく学び合い、親のあり方を考えながら、子育ての仲間作りをし、健やかな家庭を作る。子育て、教育等の相談を受けて、育児ストレスや育児不安等を解消していく。

手段・方法
 (どうやって)
 ・「遊びの広場」月1回、親子で楽しく遊びのびのびとした子育てや親子の仲間作り。・「えほんとなかよし」月1回、親子で絵本を楽しみ、遊びや歌を交え絵本の紹介及び読み聞かせ。・「絵本で子育て」月1回程度、絵本のひみつと一緒に考えることで、絵本の魅力を知る。・「からだであそぼう」体を使った遊びの体験。・「体と心をぎゅーだっこ」運動を通して親子の関わり方を考える。・「子育てははじめの一歩」専門分野の講師による講座。・「働きたいママの応援セミナー」仕事と家庭の両立を考える。・「ベビーダンス、パパのベビーダンス」スキンシップを通して、親子の絆を深める。・託児有の講座実施。・電話、面談、地区こども館へ出向いての子育て、教育相談等の実施。

評価指標の作成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	講座の開催	講座の開催数	回	講座の開催数
	2	相談実施率	相談実施	%	相談実施/相談希望者×100	100
	3					
	変更履歴					
成果指標	成果指標	成果・効果は何？	指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値
		1	講座参加者の増加	参加者数	人	講座参加者数
	2	相談解決割合の増加	相談終了割合	%	相談終了件数/相談件数×100	100
	変更履歴					

実施状況	項目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
			事業費等(a)	円	9,442,194	10,106,000	
財源内訳	国庫支出金	円	2,650,000	2,650,000			
	県支出金	円	2,650,000	2,650,000			
	地方債	円					
	その他特定財源	円	40,500	6,000			
	一般財源	円	4,101,694	4,800,000			
活動指標	講座の開催数	目標	回	60	70		
		実績		75			
	達成率	%	125.00	-	-	-	
	相談実施	目標	%	100	100		
		実績		100			
	達成率	%	100.00	-	-	-	
参加者数	目標	人	3,000	2,500			
	実績		2,419				
達成率	%	80.63	-	-	-		
相談終了割合	目標	%	100	100			
	実績		100				
達成率	%	100.00	-	-	-		
備考							

事務事業名	家庭教育センター運営事業		事業期間	1995 ~	年度	係内番号	01
担当部署	生涯学習部	生涯学習課	家庭教育センター		連絡先	73-0888	

事業 評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化					
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)					
	翌年度方向性	成果 コスト				
課長評価日						

事業 後 評価 (CHICK)	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	成果動向指標要因分析	講座の参加者については、減少傾向にある。最近では低年齢で保育園等に預ける家庭が増加していることが原因と思われる。子育て・教育相談等については、家庭教育センターでの電話や面談の他に相談員が地区こども館へ出向いて相談にのっている。				
	総合評価	直接相談員が声がけをすることで、講座へ参加する方も増えている。また、講座などへの参加が仲間づくりの場となっている。				
	課題	新たに講座への参加をしていただける方を増やしていくことが重要になる。				
改革・改善の方向性(ACIT)	翌年度方向性	成果 コスト	現状維持			
	改革・改善の方向性の内容	講座への参加を4か月検診や10か月検診などの機会に周知していき今後の講座参加者を増やしていく。				

作成担当者	永澤美代子				
最終評価責任者	藤森 隆				
最終評価年月日	2019年5月17日				